

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成28年7月)

～金融市場が落ち着きを取り戻したことでDIも上昇～

- 景気ウォッチャー調査・7月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が3か月ぶりに上昇、先行き判断も3か月ぶりの上昇となった。
- 足元の状況は、英国の国民投票から約1か月が経過し、金融市場が徐々に落ち着いてきたのに伴い、企業や消費者の不安感も少し和らいでいる。その結果として、先月に大きく落ち込んだDIの上昇につながったとみられる。さらに、今年は梅雨明けが早かったほか、特に月前半は雨が少なく、気温が高めとなったことも、月前半の夏物消費の好調を通じてDIの上昇につながったと考えられる。
- ただし、インバウンド売上は百貨店を中心に前年を下回る動きが続いているほか、夏物消費についても、月後半は気温が平年を下回る日が多かったことで、月全体では必ずしも好調とはいえない状況である。
- 一方、先行きについては、金融市場が落ち着いてきたことなどで、今後に対する不安感が和らいできたほか、大型の景気対策に対する期待感もあり、DIが上昇する形となっている。ただし、為替市場では円高の動きが進んでいることで、今後の悪影響を懸念する声が多い。
- 開幕を直前に控えたりオ五輪については、経済効果等を期待する声は依然として少なく、過去の五輪とは大きな違いが感じられる。また、気温の面では、今年は残暑が厳しくなるとの予想から、秋物商品の売行きへの影響を懸念する声も聞かれる。

「猛暑、気温」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	や や 良 く な っ て い る	コンビニ(経営者)	・夏になって気温が30度以上の日が続き、アイスコーヒーとともに、今まで売行きが悪かった菓子パンが、昼食代わりによく売れている。
		タクシー運転手	・暑さでタクシーの利用率がアップしている。特に、参議院選挙などで人が動いている。
		美容室(店員)	・暑くなってきたのでカットの周期が短くなるほか、ひと手間かけたヘアカラーのオーダーが多く、単価がアップしている。
	変 わ ら な い	百貨店(売場主任)	・今月はバーゲンの好調や、これまで良くなかったアパレル関連の好調などで、目標を達成する見込みである。バーゲンの開始時期が早まったほか、気温が高くなり、季節商品の販売が好調となったことが大きな要因である。一方、高額品の動きが頭打ちであるほか、中間層の客による購買への慎重な姿勢には、依然として変化がない。
		スーパー(店長)	・今月の出足は好調であったが、中旬から徐々に悪化するなど、7月初旬の気温上昇で夏物が先に売れただけであった。来客数が新たに増えたわけでもなく、客単価が急激に上がったわけでもない。
		スーパー(経理担当)	・梅雨明け以降は気温が上昇し、猛暑の予測も出ているため、夏商戦が本格化すると期待しているが、売上は小康状態で、消費者マインドは今一つの状況である。

家計動向関連	変わらない	コンビニ（広告担当）	・大きな変化はみられないが、気温上昇などの天候要因の影響で、3か月前と比較すると改善傾向にある。一方、前年比では大きな変化はない。
		乗用車販売店（営業担当）	・暑さの影響なのか、来客数が昨年よりも減っている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・7月前半は暑い日が続いた結果、飲料水やUVカットクリーム、殺虫剤などの動きが良かったが、下旬になって最高気温が30度前後に下がり、動きが少し鈍くなってきている。
	やや悪くなっている	一般小売店〔花〕（店長）	・暑さの影響が出ている。
		スーパー（店長）	・好調であった食品が販売点数、単価共に悪化傾向にある。一方、家電や衣料品は、7月前半の高い気温の影響で、エアコンを中心に好調なスタートとなったが、月後半は昨年のプレミアム付商品券の反動もあり、前年の実績に届いていない。
家電量販店（経営者）		・梅雨明け後の、低い気温や天候不順が影響し、夏物家電のエアコンや冷蔵庫の販売量が少なく、売上が上がらない。	
家電量販店（企画担当）		・近年のような猛暑日がほぼなく、エアコンが売れていないなど、夏物商品全体の販売状況が鈍い。	
企業動向関連	なっている	タクシー運転手	・毎年、8月は観光客も暑さで減少するため、利用が下火になる。
		食料品製造業（営業担当）	・昨年と比べて気温が高く、早めに梅雨が明けたこともあり、飲料水の売上が増加している。
	変わらない	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・月の前半は、気温上昇に伴ってエアコンなどの夏物商品が市場を引っ張っていたが、中旬から後半にかけては天気の良くない日が多い。気温もそこまで高くないことから、夏物商品の荷動きが急速に鈍化している。
		経営コンサルタント	・周辺の小売業をみると、猛暑の影響もあって、季節商品は来客数、売上共に、かなり好調と思われる。ただし、それ以外の商品については、財布のひもは固く、苦戦している。

「円高・株安」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	やや良くなる	百貨店（外商担当）	・欧州の政情不安が一段落し、株価が戻ってきたほか、政府の経済対策が決定することにより、消費マインドが幾分回復してくる。
		百貨店（営業企画）	・英国のEU離脱問題やテロ、円高といった外的要因が落ち着いてきたほか、参議院選挙での与党の圧勝も安心感につながった。大型の経済対策が具体化すれば、年後半に向けて徐々に回復してくることが期待される。
	変わらない	百貨店（販促担当）	・今後数か月は、消費に影響を与える要素が見当たらない。リオオリンピックは外出が抑えられるため、マイナスの影響となる。一方、暑さが長引けば、8月は夏物の動きが活発になるものの、9月以降は秋物の動きが鈍る。参議院選挙は終わったが、株価や景気の見通しは難しい。
		百貨店（売場マネージャー）	・株価が今のところ落ち着いているためか、高級ブランドや宝飾品などの売上も、現在は堅調に推移している。ただし、ファッション部門はファストファッションなどとの二極化がますます顕著になっており、百貨店のボリュームラインである冬物の定価商品がどこまで動くのかを注視している。
		百貨店（商品担当）	・英国のEU離脱問題による影響が徐々に小さくなり、参議院選挙の結果も、経済に好影響を与えている。株価が安定的に推移すれば、一進一退ではあるものの、大きく崩れることはない。
	百貨店（マネージャー）	・英国のEU離脱問題による金融市場の冷え込みが終息した。株価も落ち着き、富裕層の購買力は維持されているが、インバウンド消費は今月も前年比で20%の減少となっている。来客数も減少傾向となるなど、中間ボリューム層の消費意欲が戻ってきたとは感じられず、今後も厳しい状況が続く。	

家計動向関連	変わらない	衣料品専門店（経営者）	・相変わらず良くなる要因が少ない。株価は少し持ち直しているものの、良くなる決定打がない。
	やや悪くなる	一般小売店〔酒〕（社員）	・円高により、高所得者の購買意欲が下がっている。セールの打ち出しで回復を図っているが、特に目立った効果は出ていない。
		百貨店（販売推進担当）	・百貨店では高額品の不振が長期にわたって続いている。さらに、インバウンド需要も、中国の関税引上げや円高などで日本離れが続き、その大半は欧州に流れている。また、若者の消費意欲は依然として低いため、急激に悪くなることはないが、良くなる兆候は全くない。
		百貨店（マネージャー）	・参議院選挙後は株価が改善傾向にある一方、外食産業などを中心に、値下げを実施した企業の業績が回復する傾向がみられる。これまでは値上げに対する理解が浸透しかけていたが、大きく変化してきた。消費者の節約志向が強いという認識を企業も持ち始め、価格戦略を見直す動きが広がりつつある。今後、百貨店では厳しい商戦が避けられない。
		スーパー（店長）	・昨年に景気対策として実施されたプレミアム付商品券の影響が、8～9月に客単価の面で出てくる。また、円高、株安により、富裕層の間で買い控えが出てきている。
		観光型旅館（管理担当）	・年金受給年齢が75歳まで引き上げられる可能性があり、また、年金積立金の株式運用による損失が数兆円規模との話もあり、消費者の将来に対する不安から、消費は引き締められる。
	都市型ホテル（支配人）	・まだまだ景気回復とはいえない。為替や株価は不安定であり、企業業績も人件費の高騰や人材不足、食材の原価率アップなどが足を引っ張っている。景気回復にはもう少し時間がかかる。	
悪くなる	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・円高、株安が続き、コストも下がらないなど、販売環境が厳しい。	
企業動向関連	やや悪くなる	不動産業（営業担当）	・米国の利上げの見送りで円高が進み、ますます神戸から事業所が撤退しているように感じる。今後もこの状態は続くと思われ、景気は緩やかに悪化していく。
	悪くなる	化学工業（管理担当）	・円高、株安のほか、英国のEU離脱問題によって先行きが不透明になっている。
雇用関連	変わらない	新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・前月は英国のEU離脱問題による景気への大きな懸念から、悲観的な回答になった。今月になって、今のところは極端な株価下落や円高もみられず、求人数も安定しているため、2～3か月は景気に大きな変化はないと予想している。
		職業安定所（職員）	・影響があるとすれば円高によるもので、受注量が減少すると予想している。ただし、英国のEU離脱問題の影響もないため、全体としては現状維持である。
	くやな悪	人材派遣会社（役員）	・企業の採用意欲が昨年に比べて後退している。求人も少ないことから、市場の縮小が続くような気がする。円高基調が早急に反転するとは思えず、今後は更に景気が悪化することが予想される。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 14		15												16											
		月 6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
現状判断	近畿	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5	49.9	46.8	49.2	47.1	45.9	44.0	44.1	43.1	40.1	46.9
	(全国)	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3	47.5	48.2	46.1	48.7	46.6	44.6	45.4	43.5	43.0	41.2	45.1
先行き判断	近畿	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9	51.4	48.7	48.5	47.9	48.0	46.5	46.7	46.6	41.1	46.1
	(全国)	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2	49.1	49.1	48.2	48.2	49.5	48.2	46.7	45.5	47.3	41.5	47.1